

漁海況情報

平成21年9月15日 第25号(通巻415号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

TEL:0837-26-0711 FAX:0837-26-1042 Mail:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

HPアドレス: <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

【萩 - 見島フェリー観測の表層水温】

萩 - 見島フェリー観測の表層水温(下図)は、9月に入り降温し、平年・前年に比べ低めで推移していましたが、9月13日以降、平年・前年に比べ高めで推移しています。9月15日の水温は26.2°Cで、前年に比べ0.5°C高め、平年に比べ1.5°C高めです。

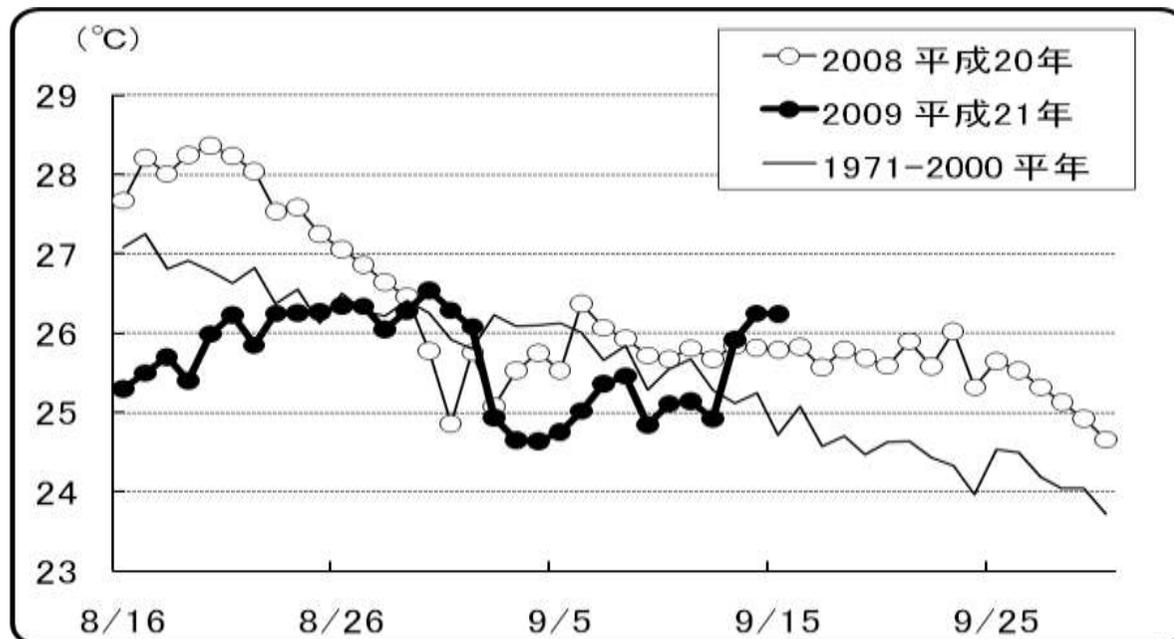


図 萩NNW15マイル沖の表層水温

【今年のウルメイワシ漁況の見通し】

ウルメイワシ漁況について、現在当センターが入手している情報から今期の予測をいたしましたので参考にしてください。

漁獲量：前年・平年を下回る。

(湊市場、2008年漁獲量933トン、過去5ヶ年平均漁獲量928トン)

主漁期：小・中羽(全長15cm以下)：9月

大羽(全長15cm以上)：9~10月

魚体(銘柄)：小・中羽は昨年を下回り、大羽主体の水揚げとなる。

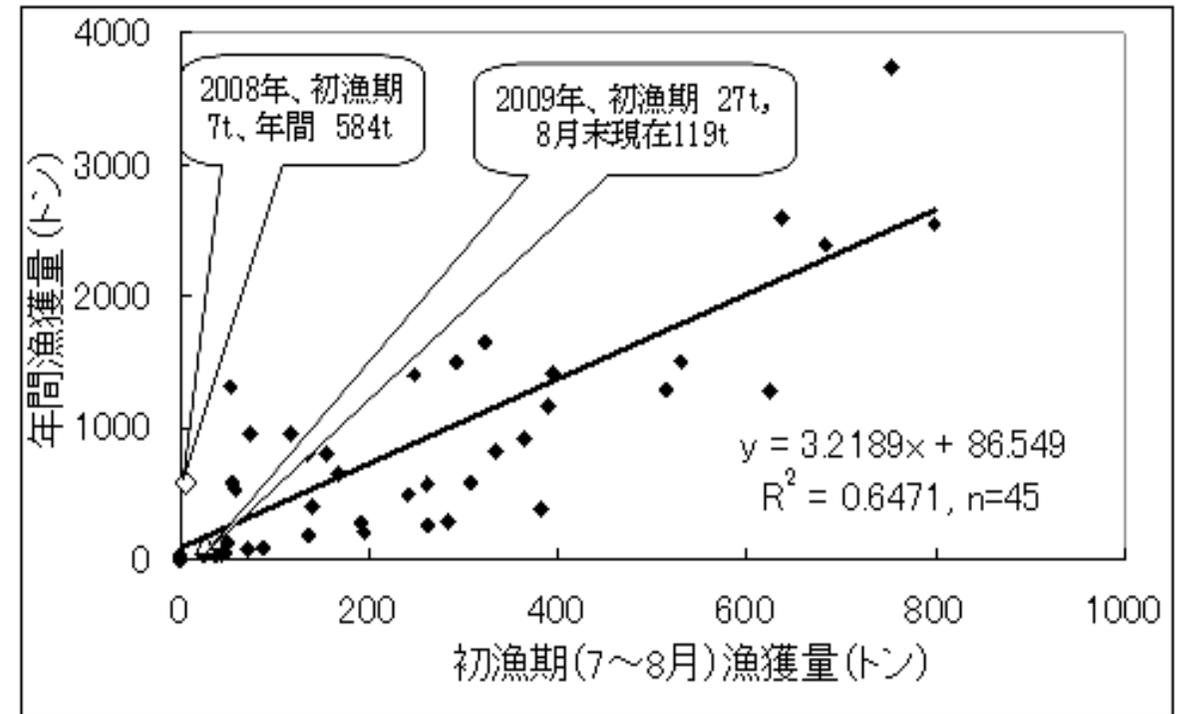
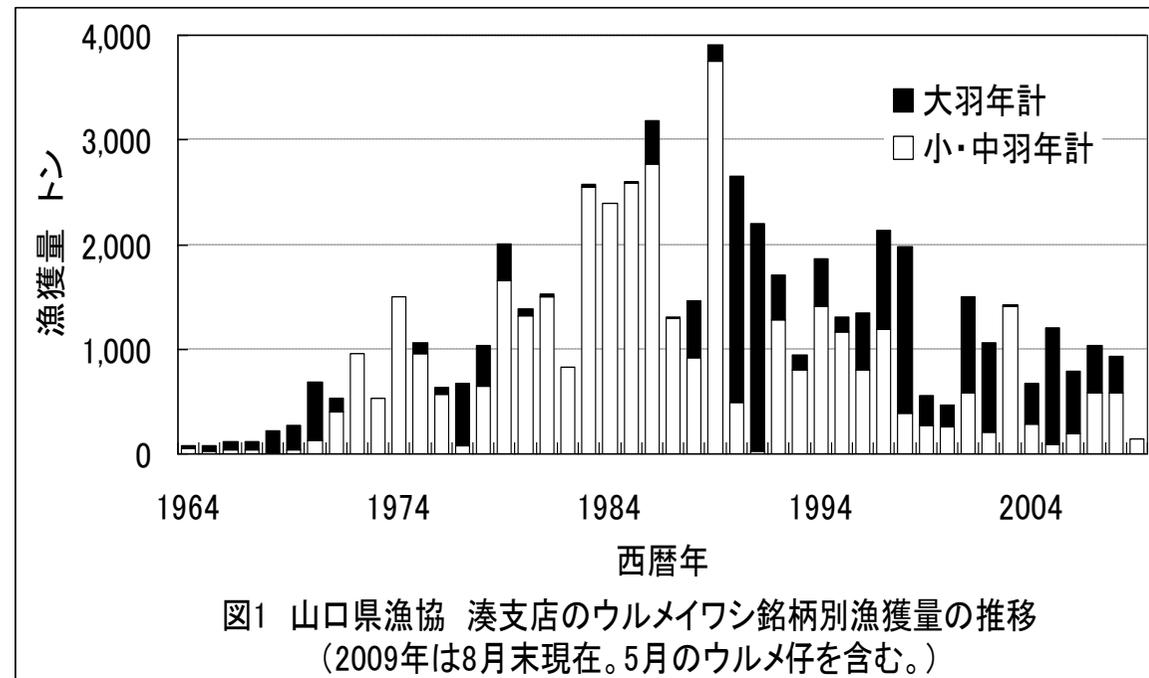
(湊市場、小・中羽、2008年漁獲量584トン、過去5ヶ年平均漁獲量347トン)

予測の根拠

1. 資源量・漁獲量の長期変動傾向

1) 平成21年対馬暖流系ウルメイワシ資源評価：「低水準・横ばい傾向」。

2) 湊市場の漁獲量：浮敷網（棒受網、すくい網）による漁獲量の推移は、1989年をピークに、それ以降減少傾向にある(図1)。銘柄は1989年までは小・中羽が主体だったが、1990年を境に大羽の割合が増加している。



2. 本年の漁獲量の動向

1) 初漁期漁獲量と年間漁獲量(小中羽): 湊市場の初漁期(7~8月)漁獲量と年間漁獲量との間には正の相関が見られる(図2)。今年7~8月の漁獲量は27トンと少ないため、年間漁獲量も少ないと推測される。

2) 西部各県の今年の漁獲動向：長崎県北松南部海域で操業する中・小型まき網の3~8月期漁獲量は前年同期の61%で、うち81%が大羽主体と、昨年までの小・中羽主体・小中羽混じりとは異なった(長崎県総合水産試験場発行・漁海況週報より集計)。また、福岡県棒受網の5~6月漁獲量はわずか50kgで、前年同期(16トン)を大幅に下回った(福岡県水産海洋技術センター資料)。

【豊関・大津長門地区の水温・魚群情報】

9月11日に蓋井島周辺海域で魚礁調査を漁業調査船「第2くろしお」で実施しました。

各観測点の水深別水温並びに魚群反応のあった海域、反応水深及び水温は以下の図表のとおりでした。

④海域(緯度34°29.36'N 経度131°01.47'E)で30分程度、釣獲調査を実施したところ、マアジ5尾(尾叉長9~15cm)、カサゴ2尾(全長19、23cm)、ウルメイワシ1尾(尾叉長:12cm)、マハタ1尾(全長37cm)が漁獲されました。

表 各観測点の水深別水温(°C)

測点番号	①	②	③	④	⑤
名称等	豊関地区 人工礁	神田岬沖	川尻岬沖	オーシャンク 入No.1	深川湾口
時刻	12:33	13:49	15:14	15:36	17:36
水深	73m	69m	48m	89m	41m
0m	26.9	26.0	25.8	26.3	25.1
20m	25.3	24.5	24.8	24.3	23.7
40m	24.2	23.5	24.2	23.8	23.5
60m	22.2	22.8	-	23.2	-
80m	-	-	-	22.4	-
海底	22.1	22.6	23.9	21.5	23.3

魚群反応があった海域

いずれも位置は世界測地系です。

- A 14:05 緯度 34°19.08'N 経度 130°52.07'E
反応:ふつう 水深:23m 反応深度:10m~海底付近

- B 14:30 緯度 34°23.70'N 経度 130°54.42'E
反応:ふつう 水深:31m 反応深度:25m~海底付近
- C 14:57 緯度 34°26.52'N 経度 130°56.50'E
反応:ふつう 水深:42m 反応深度:30m~海底付近
- D 15:36 緯度 34°29.36'N 経度 131°01.47'E
反応:ふつう 水深:89m 反応深度:60~80m

○調査海域

